

かみいちだちいきのうせいそばをつくらまいかい

# 上市田地域農政ソバをつくらまい会（高森町）

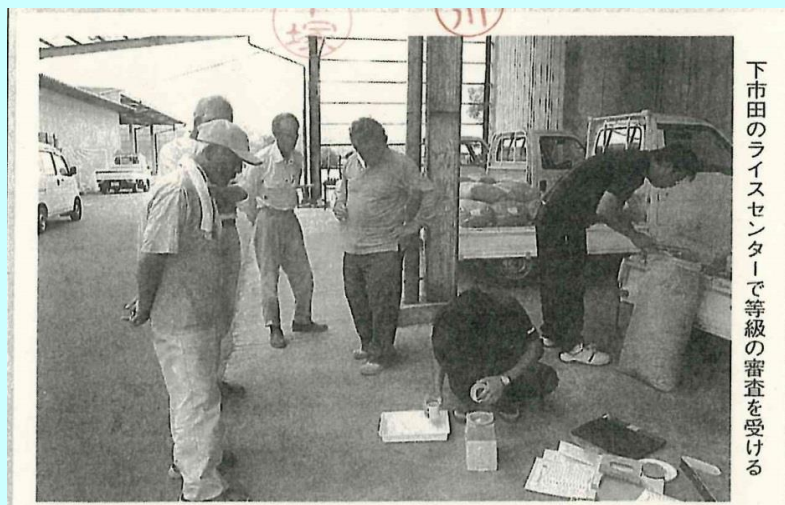
・組織の活動面積	A=	5.15	ha
・組織の構成員数	約	25	人

組織形態	農地維持 ■	資源向上(共同) □	資源向上(長寿命化) □
取組開始年度	平成26年～	—	—

構成員	農家、地元住民
-----	---------

## 組織の概要

- ・管理者の高齢化、離農等により、農地の遊休化や水路等施設の維持管理負担が増大していたが、遊休農地対策によるソバ栽培を通じて地域住民等の協力を得、水路等の保全活動の負担が軽減しました。
- ・農業者以外の地域住民も会に積極的に参加し、農地等地域資源の維持管理の担い手を確保しました。
- ・収穫されたソバは、町の収穫祭や地区の納涼祭での出店販売や地元のそば打ち教室や手打ちそばのふるまい会にも利用され地域の活性化に貢献。



下市田のライセンスセンターで等級の審査を受ける



上市田地域農政ソバをつくらまい会では、平成28年度から小麦の本格栽培を開始し、遊休農地対策として作付けを行っています。飯田下伊那地域で本格的に栽培するのは、初めてであり今年度は1,900kgの収量がありました。自家製粉を行い、地域の方々に提供しています。

## 小麦の栽培を本格化

### 上市田の会が初の農産物検査

高森町上市田の住民有志でつくる「上市田地域農政ソバをつくらまい会」は、小麦の栽培を本格的に始めた。収穫した小麦は独自で製粉し、全量販売する計画。町担当課によると、自家用に栽培する農家はあるが、販売用に大々的に栽培するのは珍しい。

### 高森町 遊休農地対策で

同会は、20年ほど前に住民有志が集まって発足した。増え続ける遊休農地対策としてソバを栽培し、二毛作の新たな試みとして3年前から小麦の栽培に着手した。これは栽培を本格化し、上市田の約60%を使って畑類などに利用される「ハナマンテ

ン」の1種類を栽培。先月中旬に約1900kgの収穫し、乾燥させた後、今月6日にJAM（全日本信用等協）で等級などを調べる農産物検査を受けた。関係者によると、同JAでは小麦の農産物検査が行われるのは今回が初めて。赤カビなどの病気を



上市田育成会とそばの会コラボ



上市田育成会とそばの会コラボ

ソバをつくらまい会では、地元育成会とコラボレーションを行い、そば打ち体験や新そばの振る舞いを行っています。地元住民や子どもたちへ組織活動のPRの場として、また組織への参加への呼びかけとして活動しています。

けて販売に備える。今後は、町の高森地域担い手協議会から小麦専用の製粉機を借りて随時粉にする。粉の量は900kgになる見通し。この取り組みが口コミで広がり、「小麦粉がほしい」と飲食店などから問い合わせが数件あるという。メンバーによると、小麦の出来は上々だ。羽生誠さん（72）は手心えを指示し、交付金事業を受けられるよう支援する町担当課は「この取り組みを普及させたい」と話していた。